



2018.3.5

No. 290

MONTHLY

れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 杉山 元

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろうビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

道内経済5団体要請を実施 月例にこだわった賃上げと働き方改革の推進等を求める

連合北海道は2月28日、札幌市内で経済5団体(北海道経済連合会・北海道商工会議所連合会・北海道商工会連合会・北海道経済同友会・北海道中小企業団体連合会)に対して今春闘における連合の考え方を説明すると共に、賃金引き上げや働き方改革の推進、雇用の安定・維持等、4項目26課題の実現を強く求めた。

連合北海道の出村会長は、昨春闘で中小の賃上げ率が大手を上回ったことに触れた上で、「賃金改善の流れを継続し、経済の自律的成長のためには月例賃金のアップと中小企業、非正規労働者の賃上げが必要」と述べ、連合方針の定昇2%、ベア2%、賃金制度のない企業では10、500円以上の賃金引き上げを実現するよう求めた。

また、今春闘でのもう一つの柱である働き方改革についても、「裁量労働制の拡大ではデータの不備が指摘されている。長時間労働が危惧される裁量労働制の対象業務の拡大と高度プロフェッショナル制度については反対だ。関連法案から分離すべきである」と強調した。一方、長時間労働の上限規制や同一労働同一賃金等による非正規労働者の処遇改善については早急に実現するよう進めるべきだと経営側に理解を求めた。さらに「働き方改革の推進は現場を知っている労使が先行して進めていくことが必要だ」と、労使一体となった取り組みを要請した。

この他に4月1日から施行される「有期労働者の無期転換ルール」に関して、「無期転換ルールが知られていない。また、権利が発生している労働者の把握等、企業側の

準備が進んでいない」と指摘し、企業に対する周知もあわせて求めた。

これに対して経済団体を代表して挨拶した北海道経済連合会の高橋会長は、「北海道の経済はゆるやかに回復しているとされているが、人手不足による人件費の高騰や原油高による原材料費の高騰により厳しい経営を余儀なくされている」と北海道経済の状況を説明し、「経済の持続的発展のためには賃金引き上げの流れは維持・拡大していくことが重要」と述べたものの、「個々の企業の置かれている経営環境、業績については様々。収益が拡大、高水準で推移している企業や中期的に収益体質が改善された企業においては多様な方法による年収ベースでの賃上げを前向きに検討していきたい」と、経団連の経労委報告に基づいた回答にとどまった。消費指向が高い月例賃金での賃上げを求める連合に対して、賞与・一時金を中心とした年収ベースでの賃金改善を主張する経営側の考えに隔たりが浮き彫りとなった。

賃金以外の働き方改革の推進や有期労働者の処遇改善についても「労使双方が置かれている経営環境について正しく認識して真摯な議論を」と述べるにとどまった。

この他、連合北海道の佐藤副会長(UAゼンセン)からは、賃金引き上げや労働時間短縮、定年延長などの春季生活闘争での要求内容の説明、各経済団体から春闘に臨む考え方や取り組みについて述べられた。

[〈この記事のアドレス〉](#)

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3435>



無期転換申込権本格発生に伴いシンポジウム開催 「無期転換制度の課題と展望～雇用不安の解消を目指して～」

2月22日、4月から無期転換申込権が本格的に発生することに伴い、連合北海道は、札幌市内においてシンポジウム「無期転換制度の課題と展望～雇用不安の解消を目指して～」を開催した。本シンポジウムには、構成組織や地域協議会をはじめ、社会保険労務士、研究者、学生など約250名が参加した。

冒頭、主催者を代表して出村会長が「昨年の連合調査やJILPTの調査により、労働者に対して無期転換制度に関する法改正の周知がなかなか進んでいない状況にあることがわかった。春闘においても格差是正が大きな課題。まずは無期転換制度について広く周知すると同時に、本制度が適正に運営されることが重要だ」と述べた。

次に、本シンポジウムの後援団体でもある北海道経済連合会の高橋賢友会長が「道経連としても、無期転換制度について会員企業に周知し、一定の取り組みを図ることになっている。本制度に伴う人事制度のあり方や規則の整備、同一労働同一賃金も重要な課題。法令対応のみに留まらず、該当労働者のモチベーション向上、あるいは優れた人材の確保と定着に繋げていくためにも、労使内において充分なコミュニケーションを取っていきたい」と挨拶した。

続いて、北海道労働局雇用環境改善・均等推進課の山田裕指導官が「無期転換ルールとは？」と題して講演を行った。無期転換ルールやJILPT調査結果の説明や、労働局としての無期転換ルールの取り組みを紹介するとともに、労使がこのルールを正しく理解し進めていくことが大切であると述べた。また、「労働契約法は民事法規であるため、労働局が強制力を持って無期転換ルールを

守らせるよう是正勧告することができない。労働局としては、啓発指導により会社に対して理解を求めることや、個別紛争の対応を行う」と話した。

後半は、浅野高宏弁護士(北海学園大学教授)から、「会社が無期転換制度の準備をして

いない場合に想定される事態」や「無期転換申込権を行使しないことを雇用の条件にされた場合」、「無期転換制度に対する労働組合の役割」など使用者、労働者、労働組合それぞれの立場に対する問題提起があった。

最後に、会場からは「労働局には、制度導入後の進捗状況や実態把握に努めていただきたい。同時に、労働組合が無期転換後の労働条件向上の取り組みをきちんと進めていくべき」「無期転換申込権が発生しないよう雇止めを行う使用者に対し、労働局はどのような対応をするのか」などの意見もあった。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3428>



第4回医療(看護師)職場の意見交換会を開催 産別を越え、他組合の取り組みに学び合う

連合北海道は2月14日、「第4回医療(看護師)職場の意見交換会」を札幌市内で開催した。

意見交換会には産別や地域の病院単組から看護師や助産師等26名が参加した他、北海道医療勤務環境改善支援センターの赤井センター長らも同席。各病院の実態報告や、パワハラをテーマにした学習会・分散会を通して、他組合や職場の取り組みを学び合い、働き続けられる職場の実現に向けて春季生活闘争での取り組みに活かしていこうと確認し合った。

参加者からは、「他の医療職場や他職種の就労状況、現状の問題をリアルに聞くことができ、どう対処すればいいのか参考になった」などの感想とともに、「厳しい職場だが、意見交換会に参加してまた頑張ろうと思う」、「この

意見交換会をきっかけとして、他の組合との交流が始まった」との報告があり、ふだんなかなか交流することがない産別を越えた医療職場の意見交換会・交流が、貴重な場となっていることが改めて確認された。

◆各職場の取り組みや勤務環境で情報交換

職場の実態報告では4産別1地域の9組合から、有給休暇の取得状況や時間外労働の実態、離職防止のためのワークライフバランスの導入や福利厚生状況について報告された。

時間外労働では、「部署により差が大きい」との各職場共通の課題の他、「研修等が時間外労働として認められた」との報告がされた。また、年休の取得については「年休の完全取得は労使一体で取り組んでおり、オルグ等で

組合員に周知し、組合員の意識付けもされた。取得はこの5年間でかなり進んだ」などの報告に参加者は耳を傾けていた。

厳しい勤務環境が看護師の定着率の低下を招き、看護師不足の要因になっていることから、参加者らは看護師の深夜勤や交替制勤務の状況、「定着率の高さは何が要因か」などと、自分の職場の取り組みに参考にしようと熱心に質問、意見交換がされた。

◆パワハラについて学習

『医療の質向上』に向けた働きやすい職場の環境づくり」と題して、職場のパワーハラスメントを中心に講演した北海道医療勤務環境改善支援センターの富樫真紀子アドバイザーからは、ハラスメントの現状や、パワーハラスメントの概念、行為類型、判例に基づいた具体例を説明するとともに、「人格を否定するような言動で指導していないか」「指導スタイルは、部下のキャリアに応じて行っているか」「どう伝わったか確認しているか」など、

パワハラと言われたい療(看護師)職場の意見交換会
われない業務指導のポイントや「怒りの感情のピークは6秒間。一息ついて」と衝動のコントロールについてもアドバイスがあった。



その後の分散会でも、キャリア別に6人程度のグループに分かれ、職場内のハラスメントの現状分析、改善策について討議するグループワークと発表が行われた。参加者は「時間が足りなく感じるほどいろいろな意見が出て面白かった」「現状を語り合うこと、共有することがリフレッシュになった」と話していた。

〈この記事のアドレス〉

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3419>

道南ブロック労福協主催で手話を学ぶ 労働者自主福祉担当者及び書記研修

労働者福祉協議会道南ブロック(略:道南ブロック労福協)主催の「労働者自主福祉担当者及び書記研修」が、2月9日(金)15時30分より、函館市梁川町「マリエール」において開催され、関係者等50名が参加して研修が行われた。

本研修会は毎年開催されているもので、自主福祉活動の更なる前進と担当者の知識・情報の共有化を目的に行われており、労働金庫や全労済等、労働福祉団体が中心的な役割を担っているもの。

長谷川会長の挨拶で始められた研修会の第1部・第1講座は「ためになる講座」として位置付けられているもので、今年は「簡単な日常の手話について」と題して、函館市手話出前講座を招いて行われた。



講座の中では、聴覚障害を持つ方々の悩みや生活の現状、健常者とのコミュニケーション方法など等について話されたのち、簡単な手話について指導が行われ、挨拶や自己紹介の仕方、名前の伝え方等について実践が行わ

れるなど、従来とは違う雰囲気にも包まれた会場となった。

「耳が聞こえない」ということは外から見てもわからないし、困っているときも周りの人とコミュニケーションができないため「わかりにくい障害」とも言われている。少しでも理解し、お手伝いのできる活動へ向けた入口づくりとして行われた講座は、「視覚情報」による伝達の難しさを学ぶとともに、手話の意味と形を理解することで簡易な会話を違和感なく受け入れることができたことに多くの参加者からも好評を頂いた。

第2講座は労働金庫函館支店が担当し、「個人型確定拠出年金」の取り扱いを含む重点的商品の説明と協力要請。第3講座は全労済道南支店が担当し、全労済60周年キャンペーンとして全労済の今日までの歩みのDVDを放映し、各商品の取扱拡大へ向けた更なる協力要請が行われた。

両事業所共に厳しい競争環境下におかれており、今後の職域・地域における取り組みの積極性が大きなカギを握っていることで認識の共有化がなされ、相互の連携をより一層強化しあっていくことを確認し、研修会を終えることとなった。

研修会の第2部は、福祉担当者や書記の皆さんの日頃の取り組み支援に感謝をし、更なる協力をお願いする意味も込めて行われる交流・懇親会。労福協道南ブロック・副島副会長(労働金庫函館支店長)の乾杯で始まった交流・親睦会は、終始和気藹々の雰囲気の中で進められ、各テーブルやテーブルを越えての会話が弾み、笑い声が交差し、中間で行われた「ビンゴゲーム」ではため息が漏れたり歓声が上がったりと、時間の経過を忘れさせる企画・運営となった。

研修会の最後は、労福協道南ブロック・佐々木副会長(全労済道南支店長)の発声で、厳しい環境下であっても、組合員や家族はもとより、多くの人々の自主福祉向上を目的に

より一層頑張りあうことを祈念して全員で杯をあげた。

[\(この記事のアドレス\)](#)

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3414>

「米海軍軍艦の小樽港入港に関する申し入れ」 在札幌米国総領事館、北海道に対して実施

連合北海道は、米海軍ミサイル駆逐艦「マスティン」が2月2日から7日に小樽港へ「親善」を目的として入港することを受け、1月29日在札幌米国総領事館へ、31日には北海道に対し、これに反対するよう申し入れを行った。

申し入れでは、核弾頭を搭載可能な危険な軍艦が、核兵器廃絶平和都市を宣言する小樽市へ「友好親善」の名の下、繫留経費すら支払わず入港すること、また地位協定と照らし合わせても、度重なる入港が「友好親善」とは考えられず、米軍の調査および訓練であると指摘。市民に軍事的役割を平時から準備させるものであり、北東アジア地域の軍事的緊張をいたずらに高め、平和を願う市民の思いと逆行すると訴えた。

これに対し、在札幌米国総領事館レイチェル・ブルネットーチェン首席領事は「貴重な意見として承った。こうした要請があった旨、米国大使館と在日米軍に伝える。あくまで入港は『親善』。小樽では運河清掃などボランティア活動にも参加する予定であり、小樽市と協力しながら実施していきたい」と述べた。

北海道森弘樹危機対策局長は「港湾管理者である小樽市長の意向が尊重されるべきと考える。核兵器の搭載の有無については、外務省に確認しており、在札幌米国総

領事館に対しても乗員の規律の厳正な保持と、事故防止に万全を期すよう要請を行った」と述べた。また「港湾利用は日米地位協定に基づいて行



われるものであり、国の基本的な施策である外交・安全保障に関わるものであるが、今後も渉外知事会を通じ、港湾管理条例等の尊重、非核三原則の堅持など地元の意向が尊重されるよう国に要望していく」とした。

これに対し連合北海道は、「度重なる入港は異常な事態であり、日米地位協定に基づいての日米親善というのとは解せない。そうであるならば繫留経費を支払うべきであり、人を殺戮する兵器で乗りつけるのは市民感情としても許されない。労働組合として平和を乱すものに反対の声を上げていく。渉外知事会においても日米地位協定の条項について詰めて論議してほしい」と要求した。

[\(この記事のアドレス\)](#)

<http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3396>

おめでとう
ございます!

マンスリー新春パズル当選者決定

「MONTHLYれんごう北海道」288号(新春号)の新春パズル当選者20名が決定いたしました。当選者の方々は以下のとおりです。おめでとうございます。

クロスワードパズルの正解は「ハタラキカタ」でした

新春パズルご当選者(敬称略・五十音順)

五十嵐修(国公連合)／石黒良(自動車総連)／蛭澤克之(JAM北海道)／荻野崇(UAゼンセン)／荻生龍之介(国公連合)
駒場直純(道学組)／佐々木みさ子(JP労組)／佐藤大希(JP労組)／坂口勝利(国公連合)／西岡諭志(UAゼンセン)
橋村恵美子(国公連合)／林誠(北教組)／平川貞義(北教組)／前田進(協会病院労組)／水野哲和(電力総連)
道場晃一(北教組)／森川康雄(JP労組)／山尾純一(森林労連)／四ツ辻英明(JP労組)／吉田慎治(自治労)



3月の主な動き

■春季生活闘争労働局要請

2日(金) 10:30/第一合同庁舎

■2018春季生活闘争3.8国際女性デー

3日(土) 13:00/ホテルノースシティ

■第1回メーデー実行委員会

6日(火) 13:30/自治労会館

■中央執行委員会

8日(木) 13:30/連合会館

■第5回執行委員会

20日(火) 10:15/連合北海道会議室

■第4回地協事務局長会議

20日(火) 13:30/連合北海道会議室

イベントカレンダー

春季生活闘争勝利 全道総決起集会

5日(月) 18:00/札幌教育文化会館